

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700184		
法人名	(有)大昇		
事業所名	グループホームねたろう		
所在地	山口県山陽小野田市大字福田949-1		
自己評価作成日	平成26年10月11日	評価結果市町受理日	平成27年5月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・古民家改修型で季節感を感じられ、利用者さんが馴染みやすい ・自然に囲まれており、ゆったりとした時間の中で過ごす事ができる ・三食手作りの食事を提供している ・毎日入浴し、個々に応じた介護をしている ・施設しておらず、自由に外に出たりできる ・毎月各利用者ご家族様宛てに、個々の写真に日々の様子や変化を書き添えお伝えしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は「自分の意思を発信し、自分で考え業務遂行が出来る」という達成目標を掲げておられ、月1回行われている内部研修で、年間計画(プライバシー、虐待、認知症など)を作成され、職員が交代でテーマを担当して講師を務められ実施されています。外部研修への参加の機会の提供や資格習得の支援をされるなど、職員一人ひとりのスキルアップに取り組まれています。利用者の好みを聞かれ、旬の物や差し入れの野菜、収穫した野菜などを使って三食とも事業所で食事づくりをされています。おせち料理などの季節の行事食や外庭での食維持、庭先の柿の木に実った柿をもいでおやつや採れた柚子でつくった柚子茶を飲んでおられるなど、食べることが楽しめるように支援しておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を構築し玄関に掲示し、理念を共有し実践に向けて取り組んでいる	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。職員は理念を書いた紙を、各自のファイルに差し込み振り返りをしている他、ミーティング時に唱和して、共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域への行事にもお誘い頂いたり、お大師様参りなどをし地域との交流をしている	自治会に加入し、総会に出席している。利用者は、地域のどんど焼きや神社の夏祭り、お大師様参りに出かけたり、民生委員の来訪があるなど地域の人と交流している。近所の人と散歩時に挨拶をしている他、新米や野菜の差し入れがあり、日常的な付き合いをしている。事業所だよりを年2回発行して自治会に回覧し、事業所の様子を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症に関するテーマを取り上げ、話し合い相談等受けている。またねたろう通信を定期的に配信している		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全員で行い、外部評価で指摘された項目などスタッフに伝え、それを改善するよう取り組んでいる	管理者は評価の意義について職員に説明している。全職員に自己評価をするための書類を配布し、各自が書き入れた書類を基に職員と話し合いをして、管理者がまとめている。職員は家族との協力関係について話し合ったり、外部評価を活かして、内部研修や自治会の防災システム協力体制の構築等に向けて具体的な取り組みをしている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、現状報告や活動報告をし意見交換を行っている	2ヶ月に1回開催し、利用者状況や事業所の取り組み、ヒヤリハット、外部評価の結果、外部研修、避難訓練等の報告、意見交換等をしている。夜間の火災時避難の人員不足について話し合い、事業所の緊急連絡網に地域の人5名の協力が得られるなどサービスの向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空きがでた時や、わからない事があった時は連絡を取り指導を仰ぎ、運営推進会議においては現状や活動報告を伝え関係は築いている	市担当課とは運営推進会議時の他、介護保険の更新や申請時に出向いたり、メールや電話等で相談や情報交換をして協力関係を築くように努めている。地域包括支援センターとは、運営推進会議時に利用者状況等についての情報を交換したり相談をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない宣言を玄関に掲げ、日中は出入り可能にし、また施設内研修を行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。ただし生命の危険があると思われる場合は、ご家族に説明し理解して頂いている	マニュアルに基づいて内部研修を実施し、職員は抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をせず、外出をしたい利用者とは一緒に出かけたり、気分転換をしてもらうための言葉かけの工夫をしている。スピーチロックについては管理者が注意をしている他、職員間でも話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に虐待防止マニュアルを渡し、年一度施設内研修を行い注意を払い、気になる事があれば指導するとともに喚起を促している		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っており、必要と思われた時は関係機関と協力している		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学と事前説明を行い、契約には十分な時間を取り理解・納得を頂き契約している		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など話しやすい関係を作り、意見や要望を言って頂き処理手続きを行い運営に反映している	相談、苦情の受付体制や第三者委員、苦情処理手続きを定め、入居時に家族に説明している。運営推進会議時や面会時、電話、年度末に家族に送る文書、苦情箱設置等で家族の意見や要望を聞く機会を設けている。運営に反映するまでの意見は出ていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティング時、必ず意見や要望を聞く機会を設け、他者スタッフから耳に入った時は本人に聞くようにしている	月1回のミーティング時に職員の意見や要望を聞いている他、日常業務の中でも聞いている。職員の夜勤体制についての要望から、体制を改善するなど職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況をきちんと把握しており、それぞれに応じた条件を提示している		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は職員が交代でリーダーとなり研修を行っている。また外部の研修にも参加できるようにしている	外部研修は職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命伝達をし、資料は閲覧できるようにしている。希望の場合は勤務調整をして参加の機会を提供している。「自分の意思を発信し自分で考え業務遂行が出来る」という職員の達成目標を掲げ、内部研修は、年間計画(プライバシー、虐待、感染症、認知症等)を作成し、毎月1回職員が交代で講師を務め、リーダーの役割を受け持って実施している。新人職員は先輩職員の指導を受け働きながら学んでいる。山口県宅老所・グループホーム協会の研修会にも参加している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、研修や交流会がある時には参加し、情報を得てサービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されて間もない時は、お互いの理解を深める為に関わる時間を多く持ち、その中でいろいろな思いに耳を傾け安心して過ごして頂けるよう努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面会時にお話する時間を取り、不安や要望など話しやすい関係に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設だけでなく対応が無理と思われた場合などは、他施設に紹介したりしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる力を見極め協力して頂いたり、人生の先輩として教えて頂く事もある		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の気持ち家族の気持ちの代弁者となり、相互が良好な関係を築けるよう努めている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限は行わず、電話や手紙を利用し関係が途切れないように努めている	友人の来訪がある他、行きつけの美容院の利用や自宅周辺のドライブ、電話や年賀状の支援をしている。家族の協力を得ての正月の外泊や外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、通院やテーブル席、車内での座席位置に配慮し孤立しないようにしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中のお見舞い、手紙の継続、訃報時の対応、お会いした時は挨拶しお話をしている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望を聞いたり、表情などで察知するよう努め、本人がどうして生活していく事が一番幸せかを基本として考えるようにしている	入居時に本人や家族から得た情報を利用者基本情報に記録し、一人ひとりの思いの把握に努めている。日常の関わりの中での利用者の言葉や表情、利用者の思いなどの気づきを業務日誌に記録し、申し送り時に伝え職員間で話し合い、思いや意向の把握に努めている。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを取り本人やご家族から情報を得るように努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりできる事できない事をしっかり把握し、それぞれ適した過ごし方ができるよう支援し、日誌等で記録取り現状の把握に努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成はミーティングに話し合い、ご家族やご本人より希望を聞き現状に添った介護計画を作成している	計画作成担当者や利用者を担当する職員を中心に月1回カンファレンスを開催し、本人や家族の要望、主治医や職員の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月ごとにモニタリングと見直しをしている。要望や状況に変化が生じた時には、その都度話し合いをして現状に応じた介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標を日誌に記入してあり目標に添った記録をし、ミーティングなどで話し合いをし介護計画も各自の状態に合わせ見直しを行っている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の健康状態によって、ご家族の了解のもと訪問看護や訪問診療や訪問歯科のサービスを取り入れている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防・警察・地域住民との交流の中で安全に暮らしていける支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の話をよく聞いて下さるかかりつけ医で、月一度定期受診し、往診や訪問看護にも入って頂ける	本人や家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の受診の他、必要に応じて往診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時にはかかりつけ医と情報を提供し、受診結果は通院記録に記録し家族にも伝えている。緊急時には協力医療機関の対応もあり、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には医療関係者はいないので、かかりつけ医や看護師に相談し指示を仰いでいる		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はスタッフが付き添い情報提供をしている。入院中はこまめに見舞いに行き、ご家族とも密に連絡を取り、必要に応じて医師からの説明もご家族とともに聞くようにしている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の状況を早めに見極め家族に説明し、医師と家族とともに今後の方針を決定している	入居時に事業所として対応出来ることについて本人や家族に説明している。実際に重度化した場合には、医療機関や他施設への移設を含めて家族、医師、訪問看護師、職員と話し合い、方針を共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告がある時はミーティング時に話し合い事故防止に取り組み、また年一度救急救命講習や研修を行っている	その場にいた職員で話し合い、ヒヤリハット・事故報告書に防止策を記録し、翌日の申し送り時に報告している。月1回のミーティング時に再検討して防止策を確認して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年1回消防署の協力を得て救命救急法とAED使用訓練を受講している他、内部研修で誤嚥、骨折、止血の訓練をしているが、職員全員が実践力を身につけるまでに至っていない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼夜を想定した避難訓練を行い、マニュアルもありミーティング時にも勉強会を行っている。また自治会への協力をお願いをしている	年2回、事業所独自で昼夜を想定して火災時通報、消火、避難誘導訓練を利用者と一緒に実施している。夜間における避難誘導の人員不足から地域住民の協力で5名が事業所の緊急連絡網に加わっている。周辺の介護施設と防災協定を結び利用者の避難受け入れや職員派遣などの相互援助を定めている。災害時の避難誘導等地域の協力体制の構築までに至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修でプライバシー保護研修を行うとともに、気になる声かけしている時はその都度注意している	マニュアルに基づいて内部研修を実施している。職員は一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけや対応があれば管理者が指導している。職員は個人情報や守秘義務について理解しており、管理を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言いやすいように接し、自己決定できる場面では本人に選択して頂き希望を叶えられるようにしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	離床から就寝まで個々に合わせた支援をするよう努めている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容理容は希望あれば支援し、洋服もこれまで着用していた好みのままで支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・台拭きなどできる事は手伝って頂き、食べたい物のリクエストあった時、次にはそのメニューを提供し、味付けはご自分で決定できるものはそのようにしている。そして職員も同じテーブルに着き食事している	利用者の好みを聞き、差し入れの野菜や畑で採れた野菜を使って三食とも事業所でつくっている。事業所の周辺にある季節の食材を使い献立に加えたり、利用者が魚が食べたいと言えば、魚を使って各利用者に合った調理方法で提供している。利用者は下ごしらえ、台拭きなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じ物食べながら会話して、ゆっくりと食事を楽しんでいる。飲み物は各種揃えてあり利用者は好みの物を選んで飲むことができる。お節料理などの季節の行事食、おやつづくり、外庭での食事、弁当を持参しての外出、家族の協力を得ての外出などの支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量は記録し、一人ひとりの状態に応じた調理法で提供している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアを行い、夜間に義歯洗浄を行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自に合わせ綿パンツ・リハビリパンツを使用し、一人ひとりの排泄パターンを知りトイレ誘導を行い失敗しないよう支援している	排泄表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や調理を工夫したり、また歩行や体操を行ったり運動している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調を確認し毎日入浴して頂いている。夜間は夜勤者一人なので入浴は行っていない	入浴は毎日8時から14時の間可能で、一人ひとりの希望の時間帯や好みの温度で、体調に合わせてゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴したくない人には、言葉かけの工夫やタイミングを見計らうなどの支援をしている。体調に応じて清拭やシャワー浴などの支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自個室の為、休みたい時休めるようになっており、エアコン使用し安眠できるよう支援している。また前日の睡眠状態を把握し日々の対応をしている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に際しては個々に応じた対応しており、口の中に入れたり見守りしている。症状に変化があればその対応している		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物・お地藏様参り・CD鑑賞・散歩・外気浴など気分転換の支援している	洗濯物たたみ、野菜の収穫、台拭き、調理の下ごしらえ、猫の世話、テレビやDVDの視聴、読書、新聞読み、折り紙、カラオケ、トランプ、かるた、ことわざ、四文字熟語、ボール遊び、CD体操、タオル体操、歩行訓練、TV体操など、活躍できる場面づくりをして楽しみごとや気分転換などの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩や外気浴など行くとともに、花見や行楽など事前に計画を立てて行っている。家族との外出機会のご協力をお願いしている	周辺への散歩、外気浴、お大師様参り、地藏様参り、初詣、雛巡り、行きつけの美容院の利用、ドライブ(弁天池、火の山、自宅周辺など)、花見(桜、菖蒲)などの他、家族の協力を得ての外泊、外食など戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解のもと個人的にお金を持っている方もいるが、ほとんど方は金庫に保管し必要に応じて使用できるようしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった時や、遠方のご家族から贈り物があった時などしている		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや出窓や廊下より外が眺められるようになっており、室温は利用者様に聞き調節し快適に過ごして頂けるよう支援している	古民家改修型のリビングは木の温もりを感じることができる。リビングや出窓のある廊下にはソファや椅子を配置し、利用者が思い思いに過ごす場所となっている。窓からは山々の紅葉など季節の移ろいを感じることができる。壁面には編み物やぬい絵、はり絵の作品が飾ってある。台所からは調理する音や匂いがして生活感がある。猫がゆっくりと歩く様子は利用者の気持ちをやわらげている。温度、湿度、明るさに配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ二台置き、出窓でも寛げるよう椅子を置き、軒下で外気浴できるようにベンチやテーブルを置き思い思いに過ごして頂いている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくご自分が使用していた物を持ってきて頂くようにしている。ベッドの向きもこれまでの事を聞き設置している	テレビや整理ダンス、衣装ケース、時計、ぬいぐるみ、本など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせた部屋の配置で、廊下やトイレや玄関に手すりを設置し、スロープには滑り止めをしており、つまづきやすい段差には色テープを使用している		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームねたろう

作成日： 平成 27年 5月 12日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	指示された業務だけでなく、自ら考えて行動する事が少ない点、及び、ミーティング時意見等の発言が少ない。	運営理念を基本とし各スタッフが介護についての自分なりの理念を持ち知識や介護力を向上させ、自分の意見を発言できるようになり、自分で考え業務遂行できるようになる。	配備してある介護関連書を自宅等での学習に持ち帰りを促し、ミーティング時それぞれの課題について、各自意見や質問等の発言機会を設け、問題を提起し、解決策を考えていく機会を持つようにする。	通年
2	15	職員間で事故発生時の実践力に差があり、実践力を身に付ける事で利用者及び職員を守りたい。	全ての職員が事故発生時に備え実践力を身に付け戦力アップし、次のステップに進みたい。	継続的に緊急救命講習等を行い、内部研修等で実践力を身に付ける。	通年
3	16	地域の防災計画、施設としての防災対策等、地域の中での協力体制	自治会の防災システムを理解と把握し、自治会との協力体制を構築する。	自治会での防災システム協力体制を構築し、火災の時等近所の方が自治会館まで避難の手伝いをして下さる様な関係を築く。	通年
4	36	緊急非常事態等に一時避難場所及び駐車スペースの確保	利用者さんが安全に、又、ご家族地域の方々等との交流に役立つ様にスペースを確保する。	以前より借り受けている畑を地権者より用途変更の承諾を受け、緊急時の一時避難場所及び駐車場の確保とする。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。